

The Short Way

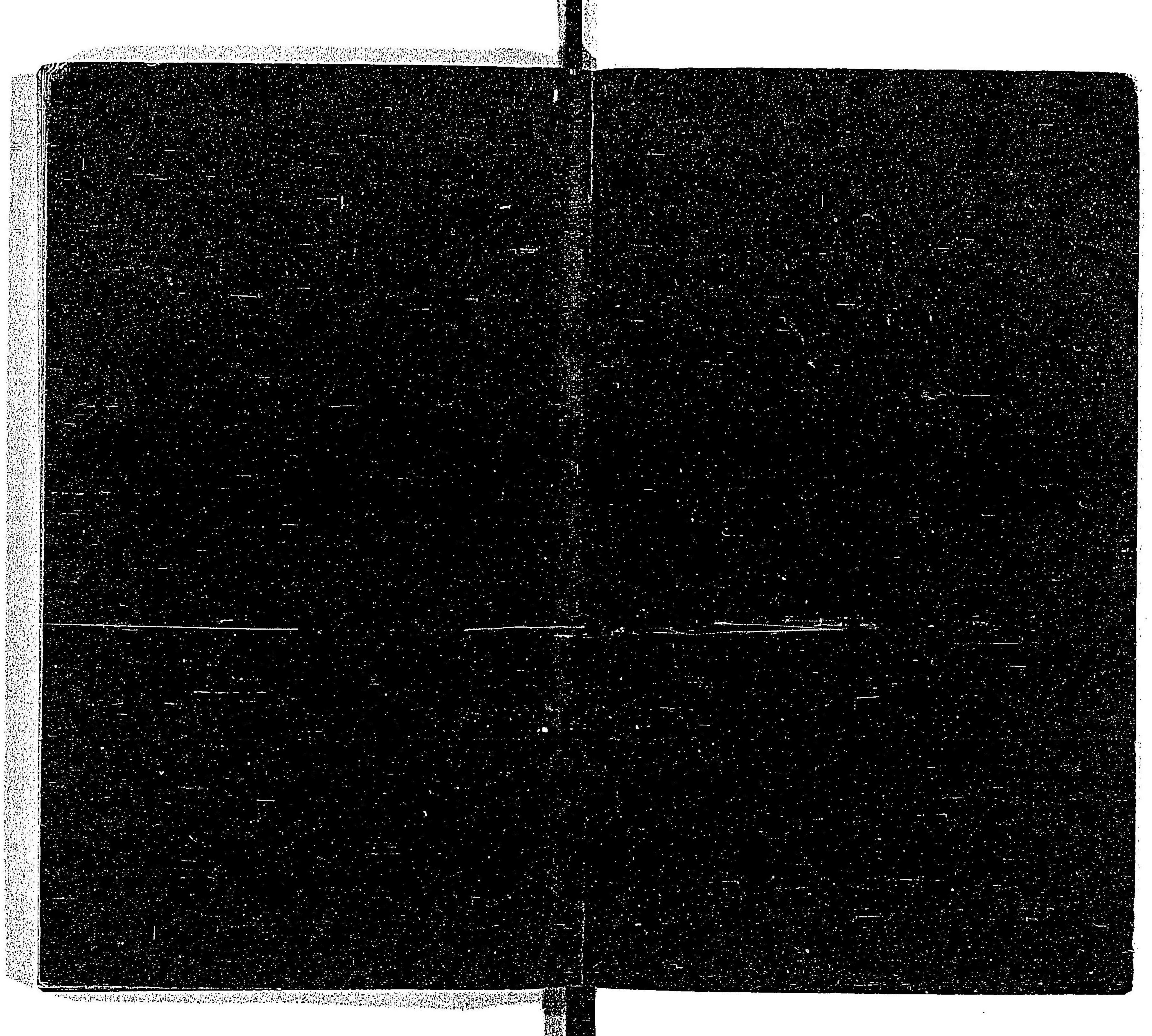
Study Guide

71
787



253
173

By Egokohi Kura



The Short Way
to Study English



英書

入門

by 39 7 8
内蔵

Qigo Kikaku Kawai

特ク
707

小序

獨逸語は學術語なり。佛蘭西語は交際語なり。英語は商用語なり。獨と佛とは讀むを得語るを得れば足るべし。英語に至ては則ち然らず、讀み作り且つ語るを要す。現時中學卒業生等が、五年の日月を之に費やしなから、猶ほ且つ讀むを得ず作るを得ず語るを得ざるは、一は遍く讀書作文會話に熟するを要するが爲めなりとはいへ、其主因は教師の教授法の不完全なると、學生の研究法の誤れるとに存す。かの海を航する者を見ず

I
小序

や。航路其宜しきを得れば安全迅速に彼岸に達するを得るも、針路宜しきを得ざれば漂蕩流離甚しきは暗礁に撞突して難波するに至るに非ずや。英語の研究亦將た斯の如きのみ。

本書は本會多年講習研究の餘、初學者の爲め英語研究の羅針盤たらしむ爲に企てたるもの、善く之を守らば、英語に達する豈に難からむや。今や刻就る。序して之を卷首に加ふ

明治三十九年六月上浣

編者誌

目次

- 緒言……………一
- 英語の沿革……………一〇
- 英語を學ぶ心得……………一九
- 獨學と師授……………三四
- 多讀と精讀……………四三
- 發音……………五〇
- 會話……………五三

目次

2

- 文法附シヤル、ウキル用法……………七三
- 接頭語と接尾語……………八四
- 熟語と類語……………九二
- 解釋及英文和譯……………九六
- 和文英譯及作文……………一三三
- 書簡文……………一三八
- 英語受験心得……………一三九
- 英語研究法……………一四四

目次終

英語シヨルトウキ

英語攻究會編

緒言

現時中學程度の學生が、最も困難を感ずる學科は何であるかといへば、先づ指を數學と英語とに屈せなければならぬ。中學の學科配當に見るも、一年から五年まで通じて連続する學科は、即ち修身と國語漢文と數學と英語と外に體操があるばかりである中にも修身と體操とは、單に智育を目的としたるものではない、即ち德育と體育

とを目的としたものであるから、これは例外である。他の和漢英数は主として智育を目的としたもので、五年間継続するのを見てもこれ等の學科が如何ばかり困難であるかがわかる。然し同じ困難といふ中にも、國語漢文は、多く讀さへすれば自づと上達するので、殊に自國語又は多年の間准自國語として祖先以來學び來つたもので、學ぶにも易く、且は日常讀む新聞雜誌も其上達を助ける事であるから比較的容易である。然し數學と英語とはさういふ譯には行かない。故に中等教育の學生が此二科を最

も困難に感ずるも決して無理ではない。

然るに他の比較的容易な學科の爲めには、問答書や研究法など數へきれぬ程夥多出て居る。又數學にも解法秘訣といふ種類の書は幾らも出版されて居るが、中に最も困難なる英語の爲めには、單に會話とか、文法とか、熟語とかいふ分類的の狭範圍の研究法或は説明書ばかりで、まだ一般に亘つて陳べたものはない。偶々あるにしても多くは外國語研究法といふやうな極めて範圍が廣いもので、重に原理原則を説いた高尚なもので、多くは外國語

教師たらしむとする人か、又は餘程素養のあるものゝ爲めに企てたもので、中學程度の初學者の爲めに企てたものは更にない。これは實に初學者に取て一大不便である。勿論嚴密な意味で言へば、外國語に限らず、何の學者にしても、研究法はあつても速成法はない。殊に風俗を異にし習慣を異にし骨格發音等を異にして居る異國の語を學ぶに速成法といふものが、嚴密な意味に於てはあるべき筈はない。嬰兒が其の母語を學ぶのでさへ、常に其父母や兄弟に接して語り聞く多くの便宜があるにも拘はら

ず、單に談話するのみでさへ六七歳にならなければ十分に出來ない。況んや土地氣候人種を異にした外國語を、單に談話のみでなく讀み書き作るに僅か一個月や半年で成就すべき筈はない。坊間に賣つて居る何個月卒業書といふやうなものは、單に會話の内の語ると、而かも不全に器械的に語ることのみを意味するものならば兎も角であるが、英語を何個月といふやうな短日月で習得するといふ事は到底不可能である。況んや通信や講義録などに於てをやである。

然しそれは嚴密な意味の速成といふとが不可能なので、比較的速成する方法は固よりある。此小冊子の題目も勿論比較的の意味である。始めて英語を學ぶ人は、英語といふ茫々たる大海の中に投じたやうなもので、如何なる方法で、如何なる行路を取て、如何にして進むべきかに就て實に亡羊の嘆がある。殊に若し寒村僻地で、教師に其人を得ない場合には殊に然りである。若し其教師にして舊式の教授を受けたものか、又は獨學で終始した人であるならば、日本語とも何語ともつかぬ變體の所謂直

譯で、注入的に、譯文朗讀的に、素讀流に教授して、何等の注意何等の勸告をも與へないやうな事が往々ある。隨て初學者は無用の事に貴重の日月を費やして而かも多く得る所がないといふやうな惡結果を來すとがある。これは恰も東京から大阪に行くやうなものである。東京から大阪に行くに如何なる人であつても一飛びに行かれるものではない。速成といふとが此様に一飛びに出來ない事はいふ迄もないとである。然し猶ほ他に比較的早く達する方法はある。即ち東京から米國を経て、英國に寄

港して地中海から香港上海長崎を経て大阪に着するよりも、横濱から直ちに瀛船で行くか、又は東海道の官線に依つて大阪に着する方が早い。それよりも空中飛行器で一直線に行く方が更に早からう。世の初めて英語を學ぶ人も其目的を達する爲めに路を海に取る人もあり、又陸路を歩行する人もあり、鐵道に依る人もあり、甚しきは地球を反對に一周して達しようとする人もあるかも知わらない。かく英語を學ぶにも矢張種々の遠路捷徑がある。然し成るべくは最も早い空中飛行器で行きたいものである。

る。即ち比較的速成したいものである。然し空中飛行器といふ速達法が甚だ不完全であるが如くに、英語速成法も猶ほ固より不完全である。現に幾多内外の學者は、頻に外國語教授法を研究して、出來得るだけ短日月を以て出來得るだけ多くの智識を與ふる方法を講じて居るが、未だに好結果を收めない。然し不完全ながらも比較的速成法は、猶ほ無きに勝つて居る。之無ければ地球を一周するの愚を學ぶ者がないとも限らないからである。

此書は即ち吾人が一日の長を以て、多年初學者に傳習の

傍、幾分捷徑ともならうと信じて注意した事柄を蒐めたものである。固より一足飛びの速成法ではないが、初學者に取つては猶ほ無さに勝つて居らうと信ずる。

○英語の沿革

英語とは何ぞや！と事々しく言はずとも何人も知つて居るとであるが、順序として一言して置く必要がある。

英語とは何ぞや、英語とは古昔の低地日耳曼語ローランド・ゲルマンと、ノルマン・フランス語との混血兒である。

現時世界の言語の種類は無数である。隨て交通や學問上不便を感ずるとは實に測り知り難い。故に近時露人の發明で、エスペラント語といふ言語が発生して、佛國を始め之を語る人口は二百萬、雜誌の數も凡そ二百種からあつて、漸次勢力を得來つたが、然しこれは元來羅典語、露西亞語、佛蘭西語等、歐洲古今の言語を參酌して作つたもので、歐洲人には餘程便利であらうが、吾人東洋人に取つては、文法が簡單だといふ外は、其學修には矢張困難である。殊に此語はまだ非常に勢力を得て居るとは

言へない。現時最も勢力のあるのは矢張英語である。英國は固より北米合衆國、カナダ、濠洲、印度、埃及、弗利賓等の一部に至る迄、苟くも英米の勢力の及ぶ所、皆英語を用ひ、殊に商業用語としても亦多く之を用ひて居る。隨て中學科程中にも外國語として多くは之を用ひて居る譯である。

然し今日の所謂英語といふのは、如何なる變遷を経て來て居るものであるか、數千年前から今日と同様の英語があつたかといふことは、詳しい事は英語變遷史に譲る

として、極く大體の事だけでも英語を學ぶ者が知らないといふのは不都合である。故に極めて簡單に此に一言して置かう。

英國には、古くは、ケルト種族に屬するブリトン人が住して居て、ケルテック語を語り、國名も隨てブリテインと言つて居た。然るに丁抹から獨逸の低地即ち海岸近傍にはチユートン種族に屬する人種が住して居たが、紀元後五世紀の頃其中のエルベ河、及ウーゼル河畔のアングル人及サクソン人は英國を征服して舊來のブリトン人を

英蘭イングランドから放逐してウェールズの山間或はスコットランドの北方山地に驅つた。元來彼等低地セルマン人等の語つた言語は、チュトン語で、今の和蘭語に類した言語であつた。尤もアングル人の語とサクソン人の語とは、同じくチュトン語に屬するものゝ、矢張異つて居たのである。彼等はブリトン人は總て殺戮したり奴隸としたり又は驅逐して之とは混合しなかつたが、アングル人とサクソン人とは混血して、其言語も亦結合して所謂アングロ、サクソン語を用ふるに至つた。故に國名も亦元のブリテイ

ンを變じてアングル人の地即ちアングランド或はイングラントと呼ぶやうになつた。

其後九世紀に至て、丁抹人の爲めに其主權を奪はれたが、元來同じチュートン人であるから言語には左程の變化を來さなかつた。然し十一世紀即ち千六十六年に至て、ノルマン、フランス人ウヰリアムの爲めに全く征服せられた。此ノルマン人は所謂ローマンス語であつた。ローマンス語といふは、西羅馬帝國が亡びた頃はイタリイはいふに及ばず、ゴールやスペインは皆ラテン語を多く用ひて居

た。然しチュートン人が伊太利に入るに及んで、交通上ラテン語を學んで之を用ひたが、其拉丁語も純粹のラテン語ではなくして、漸次之を變化し又己れの國語と混亂した。かくして出來た混亂言語が即ちロマンス語である。然しこれも亦其地方によつて各々方言を生じて今のイタリー語、フランス語、スペイン語等に分れたのである。

ノルマン人の語はロマンス語即ち其中のフランス語であつた。然しアングロサクソン人は頑固で、ノルマン人

に征服せられたにも拘はらず、矢張頑然としてアングロサクソン語を用ひて居た。是に於て英國は二種の言語があつた。即ちフランス語は官公用の文書及上流社會に用ひられ、アングロサクソン語は重に常人普通の通用語であつた。かく兩々相對して居た事は二百年の長きに及んだが、其人民も漸次ノルマン種とサクソン種の混血兒となつて、終には多くのフランス語は土語に侵入し、土語も亦其本來の文法的形式を失つて、十四世紀に至つては全く兩方の混合言語となつた。これは英國の文豪の文章

を見てはわかるとて、即ち十四世紀の文豪チヨーサーは實に始めて此英語を以てかの有名な「カンタベリー物語」を書いた人である。是に於て始めて所謂イングリジといふ言語は出来たのである。即ち英語は、アングロサクソン語と、フランス語との混血兒である。

尤もチヨーサー時代の英語は、今日の英語とは餘程異つて居て、註釋書がなくては読み難いが、それが漸次變遷して十六世紀十七世紀十八世紀に至つて漸く今日と全く同じ英語となつたのである。今日でも猶ほ幾分變化しつ

ゝあるので、極めて保守的な英本國では左程でないが、進取的な米國などでは不規則な言語は漸次退治されかゝつて居る。而して新らしい言語も亦自然に製造されつゝあるのである。殊にフネチックス(發音學)などいふものも盛になつて、成るべく發音に無用な啞音などを省略しようとして居るのである。

英語を學ぶ心得

初めて英語を學ぶに當つては、先づ第一に英語は日本語

英語を學ぶ心得

ではないといふ事を十分吞込んで置く必要がある。英語は日本語ではないと位は何人も知つて居る事のやうであるが、然し必ずしもさうでない。初學者は多くは初めて英語を學ぶ折に日本語の少し風變りなものを學ぶやうな氣で居る。これは英語に限らず總て外國語を學ぶに第一の障害である。かゝる考を以て學ぶものは、何年學んでも決して正則の英語は知るとは出來ない。初めの心掛一つの爲めに、實に長年月を空費するやうな馬鹿を見るとが多い。今日の普通の中學卒業生などが、正則の英語で

ない極めて變則な不完全な英語の智識を有して居るのは一つは實に此心掛がなかつたからである。これは尤も教師の罪にもよるのである。舊式の不規則な英語の智識を有する教師や、又は不親切な教師が假令眞に英米人のような譯には行かずとも、成るべく眞に近い英語を教へようとはせずして、己れ不規則の教育を受けたが爲めに、又は詢々反覆して誤謬を矯正するのが煩瑣なるが爲めに、よい加減にして棄て、置く爲めでもあらうが、然し學ぶ者が先づ、英語は日本語ではない、英語は英語として學ぶ

べきもので日本語として學ぶものではないといふ根本原則を腹に据ゑて置けば、かゝる失敗は比較的免かれ易いのである。

英語は英語である。決して之を日本化してはならない。日本化した英語は、日本人間には兎も角通用するであらうが決して外人には通用しない。英米人の發聲器は、稍や日本人のそれと異なるのであるから、發聲器を練習しなければ決して他國人同様に他國語を發音するとは出来ない。これは三尺の童子も知つて居るとのやうであるが、

然し十分心得て置かないといふと、得て日本化したくなるものである。

殊に本邦人と英米人とは、同じ思想を發表するに、其思想發表の形式が幾分異なつて居ることも注意して置くべきである。例へば、本邦にありては、所相パツシヤ又は受働は、勢相や敬語と同じ形であるが爲めに、之を用ふるとは甚だ少ないが、歐米では決して勢相や敬語と同形でないから、之を用ふるとは甚だ多い。例を以て言へば、

某氏は(代議士に)撰ばれる

といへば、日本語では、某氏は撰び給ふといふ敬語ともなれば、又撰ぶとを得るといふ勢相とも思はれて、前後の文意によらなければ甚だまぎらはしい事となるから、同じ意味ながら日本語では多くは

某氏は當選する

といふ風に言ふが、英語では多く

某氏は撰ばれる

といふ。其他日本語では

ウヰリアムは英國を征服した

といふように他働格を用ふるとが多いが、英語では

英國はウヰリアムに征服せられた

といふやうに受働格でいふとが甚だ多い。

日本語には無生物又は抽象名詞(勇氣、貧窮といふやうな無形名詞)を動物のやうに他働詞の主格とするとは甚だ稀であるが、英語では此擬人法(バルソニフケイション)は極めて多い。例へば日本語では

花は風に散らされた

貧窮は國民を泣かしめた

といふ事は少ない。多くは

風が花を散らした

國民は貧窮の爲めに泣いた

といふ。然し英語では前のやうに花といふ無生物、貧窮

といふやうな抽象名詞を主格とするとは甚だ多い

失敗は彼に良い訓戒を與へた

重税は課せられた、無職は國內に蔓延した、呻吟の聲

は高まつた、議員の奮勵は要求せられた。

といふやうな發表の形式は、日本語では聊か妙に思はれ

るが、英語では極めて普通であることは、少しく英書を讀んだ者が皆知つて居る所である。

思想發表の形式が種々異なる中にも、此受働格と擬人法と、及其兩者が一致したもの(即ち擬人せられた主格を受働格に説明するもの)等は最も多いものであるから、初めて英語を學ぶ者はこれ亦豫め知つて置くべきことである。

次に英國語と米國語とは聊か異なる所があることも知つて置く必要がある。

第一發音に於ても、英と米とは少しく異なつて居る。殊に *color* と *colour* の字は、英國では *A* に近く發音し、米國では *R* に近く發音する。即ち *here* といふ字に就て言へば、英人は *ヒリア* に近く、米人は *ヒール* に近く發音する。其他又 *either*, *neither* の如きも、英人は *アイザー*、*ナイザー* といふに反し、米人は *イーザル*、*ニィザル* といふ風に發音する。又注意せよといふ事を、英人は多くは *take care* と *ふが*、米人は多く *look out* と *ス* ひ支那靴の事を米人は *frunk* といふが英人は *box* と *ス* ふやうな少しの相異は固より免かれ

なり。

文字でも、英人は米人に比して保守的で、米人は新開國で雜種の人民であるから隨て進取的である。故に英人は佛蘭西語から侵入した言語文字などは、矢張原字に近い字を用ひて居るが、米人は之に遠ざかつて居る。即ち佛蘭西語出の名譽、色彩といふ字は、英人は

honour, colour

といふやうに書くが、米人は *ユ* を略して

honor, color

と書き、又英人は、芝居、纖維といふ字を佛蘭西語のテ
 アートル、フゴールと同じ字

theatre, fibre

と書くが、米人はこれも

theater, fiber

といふやうに書く。此種の例は尙ほ夥多あるが、此には
 たゞ一例を示したのみである。

上來初めて英語を學ぶ時の心得、彼我思想發表の形式の
 相異、英米語の相異等の大體に就いて陳べたが、尙ほ講

義録と辭書とに就いて一言して置く必要がある。

初學者は、獨案内や、直譯講義や、翻譯書などを原書と
 共に讀む人が多いが、これは獨學師なき人を除く外は、
 嚴に戒むべきとである。若し辭書を引くことを厭うて是等
 の方法による時は、英語の上達は思ひも寄らぬ事で、二
 年三年は何の得る所もなくして終り、後に至つて臍を噬
 むとは鏡にかけて見るが如しである。

これ等は依頼心を生じ、文字を記憶し難く、理解力を發
 達せしめず、又間々誤謬を傳ふる等、其弊害は擧げて數

へ難い。苦しくとも必ず辭書を引き、殊に其一たび引いた字には符號を附するやうにすれば、再び三たび之を引けば自づから刺激して早く記憶するものである。

尙ほ辭書を引くに當りては、主格を引いた後は、一文句中の成るべく後の字から引くが便利である。これは思想發表の形式が異なる我等日本人に取ては、殊に便利である。況んや動詞などは、辭書の譯語も非常に多いものがあつて、適譯を求むるに困難を感じ、一文句の終りの字迄引いた後に再び三たび同じ動詞を引いて適譯を索むる

とは屢々あるとて、爲めに無用の時間と勞力とを費やすとは少なくない。我等日本人は、最終の語から引けば、大概其意味を推察して、動詞の譯語中何れを採るべきかと直ちに判明する。これ亦知て置いて損はない事である。

英語を學ぶ心得は、勿論これ等に止まらない、否寧ろ本書全體に亘つて論及するところであるから、こゝにはたゞ一般の心得二三を擧げたのみで、猶ほ章を分つて其場々々に説くこととする。

○獨學と師授

學科に依ては、獨學を可とするものがないではない。即ち地理歴史の如きは書を讀めば教師なくとも左程不便ではない。又數學の如きも、解式などを備へて置けば隨分獨學も出来る。否或る數學の大家などは、獨學は却て思考力を長じ、且つ自ら苦むことが多い結果長く忘却しないから、數學は獨學の方がよいと言つて居る位で、地理歴史は勿論、數學でも獨學で終始して、一流の大家とな

つた人も隨分ある。然し英語は何うであるか。中には現に名を知られて居る大家の中で、殆んど獨學でやり遂げた人もあるやうである。然しこれ等の人の發音は餘り感心が出来ない。讀書の方は、苦しむとが人より多かつただけで成効もしたであらうが、外人との談話は少し如何はしく思はれる。

故に吾人は英語だけは獨學を排する。少くとも發音だけは必ず然るべき人に就いて學ぶ必要がある。發音以外でも、獨學はどうしても進歩が遅い。苦しむとも人より多

い上に甚だ進歩が遅い。即ち勞多くして功少なしの憾がある。殊に古から、獨學は孤陋と云てある通りに、廣く多方面に亘り難く、偏狹で、融通が利かずして、動もすれば誤謬を眞理と固信する憂がある。若し山間僻地で、良師を得ることが出来ないとすれば、止むを得ず講義類で學ぶ外はなからうが、發音だけは必ず師に就くを要する。而して完全な種々の辭書類、例へば普通の英和辭書、和英辭書、熟語辭書、故事辭書、地名人名字書、百科字書、等成るべく完全なものを備へて聊かでも疑義があれば、

煩を厭はず一々詳しく之を研究すべきである。

獨學は固より師に就くより不便であるが、或る程度迄師に就いた後は、其學ぶ所に依つては獨學は必ずしも避くべきではない。否場合によつては却て師授に勝ることがないではない。然しそれは先づ中學卒業後多少の讀書力が附いた後位をいふので、それ迄は矢張成るべく避くべき事である。

さらば教師の講義を聞いて、それを復習するのみで獨學よりも勝るかといふに、決してさうでない。心掛は必ず

獨學同様の自力でやる心掛を以て學ばなければならぬ。必ず講義前に十分豫習(獨學)の積りでしななければならぬ。教師の講義を聴くから其時にわかるといふやうな依頼心を以て豫習すれば、少しく難解の疑義に遭逢すれば直ちに之を棄て、置くやうになる。殊に初學者が豫習する場合には、少しく困難な書であれば、殆んど全文解し難い疑義に充ちて居るとが普通である。其様な場合に之を棄て、置けば、たゞ字を引いたに止まつて、豫習しない場合と同じく、理解力を養ふとが出来ずして、教師の説明

を聞いた後も直ちに忘却するものである。教師は單に疑義を質すべき人である。決して之をのみ頼るべきではなす。十分自ら研究して、如何にしても已れの現時の力では解し難い事のみを質すべきである。而して豫習も、たゞ一回字書を引いて通讀したのみでは効が少ない。第一回の折には、字書を引く爲めに思想が多少混亂して、殊には後文に書いてあるとがわからぬ爲めに、當然理解せらるべき句も、其要領を得るに苦しむとは甚だ多い。故に必ず再度之を通讀する必要がある。第二回の通讀の場

合には、既に後文に記してある記事をも略々知つて居り、字書を引かぬ故思想混亂或は中絶の恐れもなく、己れ own の理解力以内の文は必ず了解する事が出来る。吾人の経験によれば、二回以上の豫習は、單に記憶を新にし深くするに止まつて、文意解釋の方には左迄影響しない。勿論豫習の場合でも、幾回も幾回も反覆熟讀するに勝る事はないが、中學生などで、他の學科も多忙な爲めに、之れのみを力を専らにするとが出来ない場合もある故、左程多くを要求しても無理であらう。故に教師の講義を聴い

て更に一點の疑義もないやうになつた後、改めて反覆熟讀するものとして、豫習の場合は二三回でよい。然し少くとも二回は必ず通讀する必要がある。尤もこれは其豫習すべき英文全體に就いていふので、其中の一句二句の疑義などは、其句の前後に連なる句と共に、善く熟讀熟考すべきはいふ迄もない事である。

此獨學の心掛で豫習すべきとは、單に英文解釋に限らず、作文、文法、會話等皆之を怠つてはならないのである。

序に、教師の講義を聴く場合又は豫習の場合に書籍に假

名を附けるとは、目下の學生滔々として皆然りであるが、これは嚴に禁ずべき事である。これが爲めに記憶しようとする努力を怠るが故に、他の場合に同じ字に遭遇しても直に解することが出来ない。必ず嚴に戒むべき事で、たゞ單に熟字に横線を附する位のことには止めて難解のこととは他の帳簿に記入すべきである。

○多讀と精讀

英語を學ぶに多讀がよいか精讀がよいかといふとは議論

のあるとである。他の學術の書ならば、多讀よりも寧ろ精讀を尊ぶが、語學の書は一概にさうは云へない。たゞ文法書などは多讀よりも、寧ろ完全な一冊の書を熟讀する方が利益が多い。これは文法といふ事が既に學術的事であるからの事である。解釋力を養ふ點に於ては必ずしも精讀のみならず多讀も亦必要である。蓋し或る一二冊の書を如何程精讀しても、文體などは人により書によつて各々異なるもので、甲の書が如何程縦横に讀破する事が出来ればとて、乙の書が必ずしも其様に讀まるべき

ものではない。マコーレイの文が讀めても、必ずしもカーライルの文は讀めない。マコーレイの文は流暢で徒然草のやうなものである。カーライルの文は稍々佶僻で枕草紙のやうなものである。徒然草を如何程精讀したからといつて、枕草紙に接すれば文體の相異の爲めに幾らか困難を感じる。此様に文體や語句は人により時代によつて異なるので、マコーレイの文とカーライルの文とは異り、カーライルの文とシェーキスピヤの戯曲の文とは異り、シェーキスピヤの文とテョーサーの文とは異なるのである。

るのである。

故に多讀も亦大に必要である。讀本などは、多く異種類の文を蒐めてあつて、比較的此弊が少ないが、然し矢張り限られて居て、殊に時代の異なるものなどを蒐めたものは先づ少ない。殊に中學程度で使用する讀本は、殆んど同時代の文を以て充ちて居り、加ふるに主として叙事文のみであるから、(時代の異なる古文は讀むに困難なものであるから)中學程度の讀本には無理であるが)叙情文、殊に議論文、評論文などは、解し易いものでもこれ等讀本

のみを讀んだ者には解し難いものである。故に多讀も亦甚だ必要である。

現時有名な英學者中には、精讀で成功した人もあり、多讀で成効した人もある。然し精讀した人でも僅に數冊を精讀したのではなく、多讀した人でも或程度迄は精讀して居る。中江藤樹が四書大全に於ける、荻生徂徠が大學諺解に於けるやうな人は少ない。否藤樹と雖四書大全のみを精讀してあの位になつたのではなく、徂徠の如きは後には非常に多讀したものである。

要するに精讀と多讀とは、英語を學ぶには兩者並用を最も良法とする。而して或程度迄進んだ後は主として多讀すべきである。さらば如何なる書を精讀し、如何なる書を多讀すべきかに就ては、初學者に或は其撰擇に迷ふかも知れない。故に學生に就いて言へば、其教科書(己れの理解力を稍や超越せるもの)は宜しく精讀すべしである。而して己れの方に比しては少しく容易なる書を多讀すべきである。而して成るべくは、時代、作者、文體、内容等の種類の異なるものを讀むがよい。又出來得べくんば、

各學科例へば博物、理化、地理、歴史、數學等の參考書も英書で讀むがよい。又英字新聞雜誌等も傍ら多少讀むべきである。これは社會萬般の文字を知るに便なる爲めである。多讀と精讀と、兩者並用したならば、得る所甚だ多からう。

尙ほ初學者の爲めに一言する必要がある。初學者が英書を讀むには、多く逐字譯をする。即ち一々字を指して譯して始めて意味がわかるのである。これは初學の間は己むを得ない譯であるが、これが習慣となつた結果、後に

至つても、矢張字を指さなければ解し難いやうになる。現時高等學校程度の學生、甚しきは大學生と雖、猶ほ字を指して譯する人が多いのは、畢竟かゝる惡習が、因襲の久しき除くべからざるやうなつたので、轉た憐むべきである。初學者は、成るべく早くから、一度通讀すると同時に其意味を合點するやうに經驗を積むべきである。餘程早くから常に注意して置かなければ、後になつても、一朝一夕に容易に讀むと同時に解するやうにはなり難いものである。

○發音

前に陳べた英語は日本語ではない、日本化してはならぬ」といふ注意は、特に發音に於て必要である。初めて學ぶ人は、得て之を日本化して、日本の五十音に當てはめやうとする。これが抑もの誤謬である。英米人と邦人とは、既に人種に於て異なつて居る。發聲器なども聊か異なつて居る。異なつて居ない迄も發音の仕様が異なるのである。土地氣候風習等は此様な差異を來して居るのである。

同じく日本人であつても、東北人が東京語を完全に語る事は容易でない。況んや外國語をやである。然し幸にして我等日本人は、他國人に比して多くの發音をなし得るやうである。佛蘭人の如きは、我ハヒフへホを日本人同様に發するとは甚だ困難である。隨て其國語にもハヒフへホは多く啞音で、アイウエオに近い。かく、他國人が日本語を發音することは甚だ困難である如く、吾人が他國語を發音するとも困難である。若し之を日本化して日本流に發音すれば、それは日本語と他國語との混血兒で

ある。殊に英語の發音は、甚だ不規則で、困難で、佛獨
 其他の國語とは同日の談ではない。獨佛語などは、發音
 の規則を學べば、よし眞の發音ではなく、誤謬は多いに
 しても、兎も角も獨りて讀み得るのであるが、英語に至
 ては、發音の規則を學んだ後と雖、甚だ不規則なものが
 多い爲めに、多年の練習經驗を積まなければ満足に讀む
 とは出來ない。一々字書に就いて見なければ往々にして誤
 謬を生ずるのである。現時普通の中學卒業生は言ふ迄も
 なく、高等學校、大學生に至る迄、否英學者以外の學者

と雖、往々にして誤つた發音をなして居るのを見ても、
 如何に其困難なるかゞわかる。これ等の人は、始めて之
 を學ぶ時の注意が足りなかつた爲めに、多年の因襲終に
 除き難いやうになつたのである。故に大に其初めを慎し
 むべきである。

發音を講義録などで學ぶことは到底不可能である。日本
 の文字を以て、英語の發音を表はすとは、實を言へば殆
 んど出來難いとであるが、已むを得ず最も近い字で表は
 して居るのである。故に初めて英語の門に入る時は、必

ず外國人か、又は比較的正確な發音をなす教師に就いて學ぶべきである。而かも成るべくは發音に八鎌しい教師に就くが利益である。其煩瑣困難を厭うて、大概にして棄てし置くやうな事をすれば、到底成效の見込はないのである。現時高等の學校の入學試験に、發音を試験しないのは、入學志願者が餘り多數で、之を行ふとが出来ない爲めであらうが、これは甚だ嘆かましい事で、之が爲めに高等の學校にも、亂暴な發音をする人が多いのである。尤も此發音は、英人と米人とが既に聊か異なるのみな

らず、同じ英人でも、學者、常人、勞働者など、各々多少の相異はあるが、然し左程大した相異はないのであるから、吾人日本人、殊に日本に在て學ぶ者は、全く外人同様の發音は不可能であるとしても、成るべく之に近い發音は發したいものである。現時中小學の英語教師中にも、如何はしい發音をする人が多いのは甚だ残念な事である。

發音はたゞに初めて學ぶ時のみならず、常に新しい字に接する毎に、注意すべきである。辭書を引く時も先づ解

釋を見ないで、最初發音を見て、其後に譯語を見るがよ
し。

初めて學ぶ時には、煩さくとも、スペルリングは必ずよ
く注意して、其音を記憶するやうしななければならぬ。
此書は、たゞ注意だけを陳べるので、一々發音の規則を
陳べる譯には行かない。又到底筆で記さるべきものでは
ない。然し初學者に最も困難に感ぜられる一二を擧げて
置かう。

先づ最も邦人が困難に感ずるのは、アールとエルの區別

と、エとミとである。

日本人にはアールの方が發し易く、支那人にはエルの方
が易い。隨て邦人は多くエルをアールのやうに發し、支
那人は多くアールをエルのやうに發する。アールは佛蘭
西語にありては、(アールといはずエルといふ)極めて強く
殆んどアルといふ風に發する。例へば英語の注意願慮と
いふ字と同字の regard を、佛蘭西語ではアルガールルとい
ふやうに發音する。かの往時露西亞の事をヲロシヤと云
つたのも、矢張此アールが強かつた爲めであらう。英語

は佛語ではないが、佛語と混淆したものである。故に佛語程強くは言はないが、然し語首にある時は、エルに比して稍やウルといふ風に發音する。然しアールは邦人は大概誤らない。

エルはアールに比して軽い。エルのルをいふ時に舌を上顎に付けてはならない。口を圓くして殆んどエオといふやうに發音する。

エスはエスとは異なる。日本文字で書くとは出來ない。前齒の脱落した老人がス音を發する時のやうな音である。

舌尖を齒間にはさんで、氣息を吹くと同時に急に舌を引く時のス音である。其濁音は同様にしてズといふ時の音である。

フはエフ又はフとは異なる。火を吹く時のフに似た軽い音である。何といふ字をホアットといひ、何處といふ字をホエンといふのは日本化したので、英國の田舎の無教育漢などは、ワット、ウエンといふ位で、Whiskeyの字をウキスキイといふのを見ても、フよりも寧ろウに近いことがわかる。

然しこれ等は書くことは出来ない。現時フヲネチックスが盛になりつゝあるから、追々は我邦でも之を借りて發音を表はすやうになるであらうが、それ迄は筆は之を寫すことは出来ないのである。

尙ほ特に注意すべきはアクセントである。發音の抑揚高低である。日本語では、橋と箸とアクセントが違ふやうなものである。然しこれは日本語には甚だ少ない。普通平かにいふのである。然し外國人がアクセントのある妙な日本語を使ふやうに、日本人も亦アクセント

のない英語を使ふ人が多い。然し此れなくしては、英米人には決して解せられないのである。可なり素養のある邦人が、渡米して第一に苦しむのは此アクセントである。これは甚だ煩瑣であるが、又甚だ必要であるから、是非共辭書に就いて一字々々吟味しなければならぬ。現時の中小學教師も、之に注意する人は太だ少ないのみならず、自らも亦アクセントを正しく發音するところが出來ない人が多いやうであるが、初學者は第一讀本やスペルリングを習ふ時から必ず之を正して置くべきである。

後に到て矯正しやうとしても、知つて居る限りの數千字數萬字に就いて一々字書を調ぶるやうな事となる。然し初めから注意して置いて、習慣となれば、これにも幾分の規則はあつて、自然に誤らぬやうなるものである。たゞ初めが大切である。

○會話

會話を専門に學ぶには、到底日本に居ては駄目である。英米然かも成るべく本邦人の在留しない地に往つて、其

國人中に身を投じなければ出來ない。然しそれは容易に行はるべきことではない。たゞ成るべく外人と直接に應接談話する期會を多くするより外はない。特に新來の外人などがよい、久しく在留する者は多少日本語を知つて居て、日本語で語るを勉強しようとするから、英語で語る期會が少ない。世の初學者中には、往々日本人に就て會話を專攻したいなどといふ人があるが、これは思はざるの太だしきものである。

會話は耳と口とで學ぶのである。これには理屈も何もな

い。たゞ善く聴き、善く語るべきである。赤兒が父母の語を真似るが如くに真似るべきである。殊に研究中は、誤謬でも何でも構はず好んで語るべきである。文法などに注意して居ては決して上達するとは出来ない。會話は相手の言葉に應じて直ちに答ふべきで、其間文法などを考へる暇は殆んどないのである。否假へあつても無意識に自然に口から出るやうにならなければならぬ。邦人は、耳の方は多少早く慣れるが口の方は遅い。これは學校の講義などで已むを得ない結果であらうが、一つは文

法が誤つては居ないか、此様に言てよいであらうかなど、臆して口を練習しないからである。

既に日常外人に接して耳と口とを練るとが會話の要訣であるとするならば、かゝる期會のないものは全く會話を學ぶことが出来ないか。

固より會話を書に依て學ぶといふとは、根本に於て既に間違て居る。然し已むを得ずんば書によるより外はない書によるとすれば如何なる書がよいかとは、吾人の往々に受くる問である。然し會話の書には善悪はない。坊間

にある幾多の書も、固より多少の長短はあらうが、大體に於て同價値である。否會話書に非ざれば學ぶとが出来ないやうに思ふのが已に大なる誤りである。教科書中の談話は固より、如何なる文章と雖會話研究の資料とならないものはない。會話獨學の奧秘はたゞ暗記にある。善く聽き善く語り善く暗記する。これを措いて他に方法は無い。會話書も可、讀本も可、新聞雜誌小説皆可、たゞ宜しく種々の語を暗記すべしである。一語を暗記すれば其名詞又は動詞を變へて千種萬様に應用が出来る。例へ

ば

Have you ever been to Nikko? (貴君は日光に出になつたことがありますか)

の一句を暗記すれば、日光其他の文字を變へて數百様に應用すると出来る。又一二字を變じて答とするとも出来る。一句多く暗記するは即ち數百句多く語るとを得る所以である。種々變はつた文字を、毎日一句づゝ暗記すれば、一年には三百六十五句覺える譯である。

異種の三百六十五句を應用すれば、日常の事語るべから

ざるとはなひ。一句十様に變化するとしても三千六百五十句を語ることが出来る譯である。又自ら語るとを得れば對手が其句を語る時に早く解することが出来る。即ち暗記するは即ち語る所以、語るは即ち解する所以である。會話獨學の奧秘は此に盡くと言つてもよい位である。然し之と同時に又自ら聞き語る機會を作る爲め、友人と常に英語を用ふるのも一助とならう。研究中には生意氣とも謂はれまい。

尙ほ一言すべきは、邦人はよくエスとノーとの使用を轉倒するが多い。「御覽になりましたか」と問はれる時にはハイ、イ、エ共に間違はないが、「御覽になりましたか」と問はれる時、日本語では其間が事實なる時と然らざる時とに従つて、「ハイ見ませんでした」「イ、エ、見ました」といふやうに問を本として然否を言ふのであるから、

“Have you not seen it?”

と問はれる場合に、日本語流に

“Yes. I have not.”

“No, I have seen it.”

と言ふやうに、反對に答ふることが往々ある。これは日本人に取ては無理もない次第であるが、英語では誤謬である。

エスは、其の問の如何に拘はらず其事を肯定する場合に用ふるので、ノーも亦其の間は何であらうと其の事實を否定するとき用ふるので、事實を主として言ふので問を主として言ふのではない。これは初學者の注意すべき點で、等閑に附すれば大なる誤解を生ずるやうな事がある。

尙ほ普通の會話書を読む場合には、其發音の假名を見てはいけない。前に陳べた通り、日本字は到底正確な發音を表はすことは出来ないので、其上誤植などが夥多あるから、假名などに便ると飛んだ誤謬を生ずる。

又話すべき機會を求めにしても、下等社會の無教育な外人には寧ろ接せないがよい。彼等の語は斷じて吾等の學ぶべきものではない。却て無益に已を辱めるやうな事となるから、成るべく、教育ある人士と談ずるやうにして、特にアックセントに注意しないと、外人には決して

通じないものである。

○文法

書を読み、文を作るに文法に通じて居るのはいふ迄もなく大に之を助けるものであるが、さりとて一も文法二も文法で、文法以外に文章がないやうにいふのは甚だ謂はれない事である。古今東西、文法の大家に大文章家はなない。大文章家は自ら一種の文法を作る位である。日本に於ても近松や西鶴は文章の點に於て實に天才であるが、

文法を八鎌しく言へば、近松西鶴共に完膚なしである。文法は時代と共に變遷するものである。現に今日と雖、新なる作者と共に否自然の趨向と共に日に日に變化しつゝあるのである。東京言葉なども、近時の女學生言葉などはまだ生れたてのものである。「叱られる」といふ受働を、「叱れる」といふやうに省略して用ふる事の如きは、實に僅々數年前からの流行である。此大勢は、到底一二人力のみ能く抗ぐべきものではない。

米國の如き進取的の國では、ビエーチフルといふ不規則

の形容詞なども、其比較級はビユーチフラー、ビユーチ
 フレストといふ風に規則的に使用し始めた者が多い位で
 ある。文法はたゞ一通りのことを知つて居ればそれでよ
 い。文法に精通せずとも讀書作文は決して不可能ではな
 い。日本現時の新聞雜誌、又は名家の文と雖一二國文學
 者を除く外は文法の完全なものは殆んど見るとが出来ぬ。
 而して文法家として知らるゝ人で名文の書ける人は殆ん
 どない。然し今の文章家の文が、文法上非常に誤謬が多
 いといふ人は、多くは文法の進歩といふ事を知らぬ人で

ある。今後の文法はかくして成りつゝあるのである。シ
 エーキスピーヤの文は、決して現時の文法で律するとは
 出来ない。

然しそれは或程度以上の事であつて、現時英米の文章は
 其所謂文法を無視して居るものは殆んどない。文法の
 大體にも通ぜずして文法不用を唱ふるは太早計である。た
 ゝ文法萬能を唱ふる人に一針を與へたのみである。

初學者が最も困難を感ずるのは、動詞の時、特にバルフ
 エクト、テンスの過去と未來と、助働詞シャル、ウキル

の用法とである。此兩者は能く調べて置く必要がある。然し此小冊子中に詳しく之を説くことは到底不可能であるから、まだ文法を知らぬ人の爲めに、一二の點を注意して置くに止めよう。

has, —, hab, —, will have —

といふやうな過去現在未來完了は、……してゐる、……してゐた、……してゐよう、といふやうに譯すればよい。

例へば

Homer has writen poems.

は、ホーマーは詩を書いて居る。と譯し、

I had seen him when I met you.

は、私が貴君に逢つた時には、あの人に面會して居た、と譯し、

He will have reached home before the rain sets in.

は、あの方は、雨が降り出す前に家に達してゐようといふやうに譯すればよい。

然し此様に、標準となるべき時間が表はしてあればよいが、單獨にバルフェクトを使用してあるとがある。これ

も其前後に必ず標準となるべき時間が記してあるか、又は意味によつて判断されたるものである。即ち大概其前にといふとを附加して解することが出来る。

The moon had risen, and the scene was very fine.

は月は其前既に昇つて居た故、其景は實に奇麗であつたといふのである。ナショナル讀本の四卷の幽霊談中、ポタリ、ポタリといふ音を聞いて、雨の爲めに屋根が漏るのであらうと自ら言ひ消さうとして、其後の節に

No rain had fallen for weeks, and.....

とある。それは今迄二三週間雨は降つた事はなかつた。といふので、窓紗を通じて星光の爛たるを望むのである。此様な場合のハッドを能く注意して置かないと、非常に誤解をする事がある。

シヤルとウキル。

大綱||主格の意志が動作を支配する時にはウキル、ウツドを用ひ、主格が他から支配される時にはシヤル、シユツドを用ふ。

シヤルの本來の意義は要する、しなければならぬの意

味である。ウキルは決心するの意味である。一は必然に迫られ、一は自由である。たゞ例外といふべきは

The wind will blow.

といふやうな主格が意志を有せない場合であるが、これも擬人法と見れば見られる。單純の未來は

一人稱 shall 即 I shall go

二人稱 will You will go

三人稱 will He will go

であるが、然しこれにも其本來の意義を見られる。一人

稱では、説話者が行くといふ動作を、自由意志でなく寧ろ義務必要として陳べるので、二人稱三人稱に於ても、其人の義務をいふよりも意志をいふ方が禮である。

I will go. 此場合は其行くといふ動作は説話者の意志の支配の下にあるので、約束か決心かである。

You shall go. 此場合は、説話者が其人に行くことを約束
He shall go. するか行かしめるかするので、行く人は外

界の力に支配されて居るのである。

Shall I go? 此れは説話者が已れを外界の力即ち他人の意志の下に置くのである。

Will I go? これは私は行く決心をして居ますかと問ふので、他人の疑問を反覆する場合の外は不必要である。已れの意志を人に問ふ筈はな

So

Shall you go? 答 I shall,

Will you go? 答 I will.

Shall he go? 答 He shall.

Will he go? 答 He will.

此様に、其意志決心か、又は義務服従かによつて、質問には必ず其答に使用さるべき同じ字を用ふべきである。

No difficulty shall hinder me.

これは、妨げをなすべき困難が、説話者の支配の下に置かれるのである。「何の困難か能く我を妨げむや」といふ意である。

尙ほ詳しく陳べたいが、此篇は到底之を許さない。深くは文法書に就いて研究すべきである。程度の低い書では、

齊藤氏のプラクチカル、レッスンズなどはこれ等を知るには便利な書である。

○接頭語と接尾語

接頭語は語根の前に附する字で、接尾語は語尾に附する字で、これが爲めに意味が變化するのである。初學者の多くは之を知らないが爲めに、無用の勞を費やして辭書を引くことが甚だ多い。然し詳しい事は此小冊で陳べる譯には行かない。故にそれは高等の文典や字書に譲つて、

こゝには其最も普通なもの少しを擧げて置かう。

接頭語

Be-	他動詞とする時	be-calm	静める
Anti-	前の意、豫の意	anticipate	豫期す
Auto-	自の意	autobiography	自叙傳
Co-	共の意	co-exist	共存す
Dis-	不又は非の意	displeasure.	不快
Ex-	外の意	export	輸出す
Extra-	超越の意	extraordinary.	超凡非常

Fore-	前又は豫の意	foresee	前知す
In-; en-, im-	内の意	invade 侵入	import 輸入
In-	非又は不の意	inapt	不適當なる
Inter-	中又は内の意	Interpose	挿入す
Mis-	誤の意	mis-use.	誤用
Mono-	單一の意	monotone	單音
Out-, over-	過重の意	out-run	走り過ぐる
over-eat	食ひ過ぐる		
Poly-	多の意	polygamy.	多妻論

Post-	後の意	postpone.	延期
Pre-	前の意	preposition.	前置詞
Re-	再の意	renew	再新
Un-	不又は非の意	untruth	不眞實
Semi-, demi-	半の意	semicircle	半圓
demi-god	半神		
Super-	超越の意上の意	super-human	超人
Trans-	横斷又は移轉の意	transport	運搬
Tri-	三の意	trigonometry	三角術

With— 後の意

with-draw

退く

接尾語

名詞

—ar 人を表はす

beggar

乞ふ人

—er 同

doer

爲す人

—or 同

sailor

水夫

—ess 女性を表はす

goddess

女神

抽象名詞

—ness 形容詞を名詞とす

goodness

善

—ship ……の道

friend-ship

友情

—sion sにて終る動詞を名詞とす

conversion

改化

—tion t又はteにて終るものを

action

動作

—ment 動詞を名詞とす

concealment

隠隠

形容詞

—ful 名詞を形容詞とす

fearful

恐ろし

—ish 同 らし

girlish

娘らし

—ly 同

の如きの意 godly 神のやうな god-like 同

—like 同

文法

—y	同 多いの意	rocky	岩勝ちの
—some	同	tiresome	煩さい
—fold	倍の意	two-fold	二倍
—less	無の意	hopeless	無望
—ble, —able;	べきの意	visible	見るべき
movable	動かすべき		
—orious		laborious	勤勉な
—ic	之の意又均	dramatic	戯曲の

動詞

—fy	せしめるの意	purify	聖める
—ise, —ize	…化する	civilize	文明化する
—en	名詞を他動詞とす	shorten	短くす

此他猶ほ數十百種あるが、多くは自然に解するやうになるものであるから、此には其最も普通な知らざる可らざるもののみにして置く。

○熟語と類語

英語を學ぶに最も困難を感じるのは、發音は固よりいふ

までもないものであるが、熟語といふ厄介なものである。英語研究の三分の一は實に此熟語を知る爲めに費やされる程に困難なものである。これが爲めには一冊の字書を要する位である。又之を知らなければ文章を解する事が出来ないのである。例へば動詞の後の前置詞などによつて其意味が全く變化するのが多い。例へば live は生活する或は住するといふ字であるが、live on……と云へば……を食つて生活するの意となる。又 waiter は待つゝの意味であるが、wait upon は侍する、扈從する、世話をするの意

味となるのである。左にブレイキの例を示せば

My health is entirely broken down.

私の健康はスツカリ衰へはてた。

I am going to break up house-keeping.

私は世帯を疊んで仕舞ふ積りです。

The war has broken out.

戦争が始まつた。(火發すも同じ)

The thieves broke into my house.

私の家に賊が闖入しました。

The promise has been broken off.

約束は破られた。

右のやうな相異は、英語に於ては有り勝ちの事で、能く習熟しなければ非常に誤解を生ずる恐れがある。故に書を読む時には、熟語には必ず横線を記して、別冊に之を書き抜いて置くのみならず、又其熟語を用ひて自ら一短文を作るやうにすれば、習熟するとも亦早い。字書を見る時も、決して其後の前置詞を輕々に看過しないで、深く注意すべきである。

尙ほ熟語の外に、同じ意味かと思はれる字がある。例へば *between, among; beside, besides; at, in, on* などである。然しこれ等も亦意味が異なつて、場合に依ては非常の差異を生ずる。今一二に就て云へば、

between は兩者の間をいふ。

among は二個以上のものゝ中間をいふ。

例へば

Two states quarrelled between themselves.

Three states quarrelled among themselves.

といふのである。

Beside は傍をいふ。随て外の事ともなる。

Besides は其上、に加ふるにの意、

例へば

She sat beside me.

Your answer is beside the question.

Besides advising, he gave them some money.

即ち君の返答は問題を外れて居る、彼は忠告した上に若干の金銭を興へたといふのである。尙ほ in, at, on は左の

例でわからう。

He will start at 6 o'clock in the morning, on next monday.

これ等は字書を見る時(完全なる字書)特に注意して置くべきである。

熟語でも類語でもないが、初めて學ぶ時には一寸困る略字がある。序に其一二を擧げて置かう。

I'd 又は We'd = I had, We had 又は I would, We would.

won't = would not = wouldn't.

Shan't = shall not.

an't=are not.

on't=on it.

'em=them.

他は直ちに了解されるものが多いから、此には略する。

○ 解釋及英文和譯

舊式の教授法は、種々の點に於て不完全であるが、特に此の解釋の方法、即翻譯の仕方に於て殊にさうである。否東京の完全な二三の中學を除くの外、英語教師までが

二三十年前の「有りし」爲せし流の所謂直譯をもちひて居るものが甚だ多い。況んや學生に至ては、殆んど何時の世の日本語に其の様な言語があつたであらうと思はれるやうな不思議な言葉で譯して居る。而して英語を譯するは當に斯くの如くならざるべからずといふやうに得々として居る。中學程度の教育既に此の如しである。其の高等の教育に於けるも亦た想ふべきである。高等の學校の教師は、多くは此の直譯てふものが不合理なものであることは皆な知て居るが、多年の宿弊俄かに改たむべからず

で。學生は猶ほ例の變體語を用ひて居る。少くとも彼れは彼の劔れを以つて彼れ自から死すべく餘りに小心で、そゝして餘りに性急であつた流の譯し方は、學生といはず教師と言はず舉世滔々として皆な然りである。否これ位の譯し方はまだ餘程よい方である。十中八九は、矢張り皆彼女は、彼女が跳ね反つた、そゝしてオーオーオーと叫んだ事程左様に、其れに於て彼女が彼女自身を見出した所の境遇に於て驚いたといふやうな譯の分らぬ譯し方をして居るのである。而してこれのみでは譯がわから

ないが爲めに、再び又之を解釋するを要するのである。否多くの教師も(其始めの譯が不完全な爲めに)一句を再び三たび説明して居るのである。勿論難解の事ならば再三再四詳しく説明するを要するが、極めて平易な普通の日本語のやうに言へば一回にして直ちに解すべきものをも、此様な不思議な譯をするが爲めに、其譯を又説明するを要するのである。幾多の大家が嘗て此直譯の忌むべきとを論じ、幾多の文士が如何に譯すればよいかを教へむ爲めに其模範を示したに拘はらず、英語解釋翻譯界は、今

猶ほ依然として斯の如しである。實に慨以て慊すべきではないか。

此様な直譯は二三十年前の遺物である。蘭學者、又は初代の英學者などが初めて洋書を學ぶ時に、不完全な研究方法を資ける爲めに製造した遺物である。明治となつて三四十年、諸般の學術文藝は日進月歩長足の發達をして居るに拘はらず、英語翻譯のみが猶ほこれ等二三十年前の有様から多く進歩するものが出來ないといふのは實に情ない話である。これは舊來の教師の罪によるはいふ迄も

ないが、今後英語を學ぶ者は斷じて此弊を脱却すべきである。少くとも此冊子を讀む人は、今より直ちにかゝる滑稽な不思議な日本語の束縛を脱却すべきである。「ありし」爲せしなどいふやうな語は、口語にも文語にも決してない。若し文章體にする積りならば、「ありき」爲しきとするか、口語ならば「あつた」した又は「爲した」といふやうにするべきである。而して坊間に賣つて居る直譯書などは振向いてもならぬ。これ等は例の不思議な言語を書いて、それのみでわからぬ所から、二重にも三重にも又々説明を

加へてある。加之徃々にして誤謬を教へるものである。決してかゝる種類の書に依らず、苦しくとも必ず字書と首つ引にて研究すべきである。獨學師なくして字書のみで如何にしてもわからぬ時は、已むを得ず良好な翻譯書直譯書や獨案内に非ずに就いて、其疑問の點のみを見て、決して他の個所を見ないやうにしなければ、上達は必ず覺束ない。

翻譯はたゞ原文の意味を取ればよい。決して字を逐うて譯するには及ばない。否彼と我との思想發表の形式、及

文章構成の形式が異なつて居るのであるから逐字譯すれば滑稽なものが出来るのはいふ迄もない事である。同じ歐洲語ならば、其形式が大概似て居るが故に、多くの場合逐字譯をすることが出来る。支那語と雖日本語に比すれば餘程歐洲語に類して居る。然し日本語は全く異なつて居るのである。偶々類似した點を見出せば珍らしい氣がする位である。之を逐字譯するとは到底出來難い事である。尤も近時我國にも、歐洲流の言ひまはし方が大分侵入して來て、今日では殆んど普通に用ひられるやうに

なつて來たが、然し決して全く一句々に譯するとは出來ない。成るべく日本語に近く譯さうとするには、原文に名詞のものも形容詞とし、原文に副詞句のものは副詞とし、或は接續詞を略し、或時は之を加へ、或場合には又原文の二句を一句に略し、一句を二三句に伸ばし、或は全く日本流の言ひまはし方に變ずる等、種々の變化を加へなければならぬ。殊に日本語には多く代名詞を略するが、英語には必ず之を用ひてある。故に一々之を譯すれば日本語としては甚だ聞き苦しい事となる。これ等

は成るべく(意味の通ずる限りは)略すべきである。

今從來の譯し方、特に直譯の改良に就いて一二指摘して見よう。

世の多くの學生、は代名詞を餘りに多く譯し過ぎるのみならず、一々彼女は彼女の……彼女自身……といふ風に譯するが、これは甚だ聞き苦しい。寧ろ主格は成るべく略するやうにするがよい。而して his, her, their といふやうな所有格の時には、多くは其と譯すべきである。今一例を示せば、

Caesar for an instant defended himself; but when he perceived the steel flashing in the hand of Brutus, he exclaimed, "What! Thou too, Brutus!" and drawing his robe over his face he made no further resistance.

シーザーは暫し自ら防いだ。然しブルータスの手中に閃めく白刃を見るに及んで叫んだ。「何！お前もかブルータス」。而して其上衣を面上に引き上げて、其れ以上抵抗をしなかつた。

又アンドを常にさうしてと譯するのも甚だ聞き苦しい。

或場合、例へば句の初めにある場合などは止むを得ないが、多くは、と、や、て、及、並に、又、且、など、譯される。又或場合には然るにと譯すべき個所もあり、略すべき時もある。要するに其折々に臨機應變の譯をしなければならぬ。例を示せば、

Books and pictures are my lovers.

本や繪は僕の戀人である。

書卷と繪畫とは余の情人なり。

He stood and read.

あの人は立て讀んだ。

或は而かもと譯し、或は將たと譯すべき所もある。

it や there などが、文句の最初にある時は略すべきである。

It is very fine weather, to-day.

今日は立派な天氣だ。

It is my duty to go.

往くのは僕の義務である。

It is autumn when I came.

自分が來た時は秋であつた。

It is said that he is going to Nikko.

あの人は日光に行く所だと言ふ事だ。

There has been an event in China.

支那に一事件があつた。

There are but two stones there.

其處にはたゞ二つ石がある。

又 that は普通と譯すればよ。

He said that he would go.

あの人は行きたいと言つた。

尤も so……that, such……that は概ね程にと譯する。

I was so tired that I could not go any more.

僕は最早行くことは出来ぬ位に疲れて居た。

これは又

僕は非常に疲れて居て、其上行くことが出来なかつた。としてもよい。so that と連続して居る時は、爲めにとするかそれ故とすべきで、決して事程左様になど、譯してはならない。

Men work, so that they may earn a living.

人は生計を得んが爲めに勞役す。

此様な that などの後にある may, might は日本語では譯さぬ方がよい。

I gave him prize, that he might study harder next year.

來年一層勉強する爲めに、余は彼に賞與を與へた。

又 instead を普通の代りにと譯するが多くの場合 without のやうに、に非ずしてと譯する方がよい。

It is good instead of bad.

そは惡に非ずして善なり。

尤も代りにと譯すべき場合も少くはない。

初學者が解釋に苦むものを舉ぐれば、本書全部を之に充てる必要があるが、それは他の書に譲つて、最も普通なるものを舉ぐれば三種ある。關係代名詞の略されたものと、*is*を略したものと、*the*を副詞として使用したものである。

He made his living by the presents he received from the men he served.

彼は其事へた人から受くる贈物で生活した。

これは關係代名詞を二つ略してある。而してこの種類はまだよいが、他の二種は稍困難である。

The wiser he grew, the humbler he became.

これは

He became humbler in that degree in which he became wiser.

の意味で、

彼は賢明となるに従て益謙遜となつた。

の意味である。尙一二例を舉ぐれば。

The offender I see it, the better I like it.
見れば見る程好きだ。

The more general the terms are, the picture is the fainter;
the more special they are, the brighter.

限界廣さに従て其畫は益々臙ろげに、限界狭さに従つて益々明瞭なり。

又三を略する場合は

Should we fail, it is by Heaven.

吾人にして失敗せむか、そは天なり。

Were he my brother, I could do no more.

彼れにしてよし余の兄弟なりとするも、余は其以上を爲すと能はず。

Had she kept her consciousness a few minutes longer, she would have seen her husband.

夫人にして尙ほ數分間意識を保持せんか、必ず其夫を見しならむ。

It is probable that Hannibal might finally have taken Rome, had he not been recalled.

ハンニバルにして召還せられざりせば、恐らく終に口
 ーマを取りしならむ。

これにて大概了解せらるゝことゝ信ずる。今他に譯し方
 を示さむが爲めに二三の例を擧げよう。

I could not help laughing.

余は笑を禁ずると能はざりき。

You had better stay at home.

君は家に居るがよ。

You should better stay at home.

君は家に居なくてはいけない。

Think of the pleasure of other people as well as your own.

己れの快樂と共に他人の快樂をも思へ。

Whatever man has done man may do.

人の行へる事は我亦之を行ふを得べし

A ship might as well strike upon a rock as upon an iceberg.

船は岩礁に衝突するが如く亦氷山に衝突することあり。

I regard him more as a historian than as a poet.

余は彼を目して詩人にあらずして歴史家なりと爲す。

余は詩人としてよりは寧ろ史家として彼を目す。

As is the boy so will be the man.

小兒と均しく大人も亦然り。

So with the learning.

學問に於けるも亦斯の如し。

Much as he loved his wealth, he loved his children better.

彼は富を愛することしかく甚しかりしも、其小兒を愛することは更に之に勝りき。

Caesar put the crown aside, but he would fain have had it.

シーザーは王冠を側に置けり。而かも心に之を受くるを欲しき。

The men whom men respect, the women whom women approve, are the men and women who bless their species.

男子の尊敬する男子、女子の賞賛する女子は、各々其種族を祝福する男女なり。

右は決して左程艱難なものではない、單に一二を示したに止まる。坊間にある英文難句集というやうなものは、此點に於て初學に使用すると多大であるから、然るべき書

に就いて研究し、熟語成句は又必ず其辭書に就き、且つ日常使用する教科書等に少しく困難と思はるゝ句は、一々之を抜萃して研究し、單に熟讀暗記するのみならず、自ら之を作り換へて十分活用の出来るやうにすべきである。

○和文英譯及作文

初學者は初めから思ふまゝに文章を作り得るものではない。必ず先ず簡単な和文英讀から始めるを要する。英文

に限らず文章上達の秘訣は、多讀多作多改である。成るべく名家の模範文を熟讀暗記すべきである。しかすれば自づと其句調を覚えて益する所實に莫大である。會話の時に陳べた如く、一句暗誦するのは左程困難は感ぜない。而かも其利益は十倍するものである。字を改めて種々に應用が出来るものである。

又復文も非常に利益となるものである。これは少しく長い文を、和文に譯して置いて、其譯文を英文に翻譯して原文を引き合せて見るのである。この復文は古昔漢學者

などが重に實行して、多大の利益を得たものである。
 名文暗誦と復文とを善く練習應用すれば、文章の上達期
 して待つべしである。和文英譯及作文に就いてはこれ以
 外に秘訣はない。
 然し始めて自ら構成して文章を作る時には、決して難字
 難句を用ひ、奇を衒ひ妙を粧うて長文を作つてはならな
 い。短くてすむものは成るべく短くする方がよい。短文
 に巧ならば長文は何時でも出来る。強ひて始めから長文
 を稽古すれば、終には虻蜂取らずで長短文共に書くこと

が出来なくなる。

而して文を書くには、先づ其骨子を捉へて之を修飾すべ
 きである。先づ主格と説明語とを置いて漸次之を修飾す
 べきである。例へば

龜井戸の

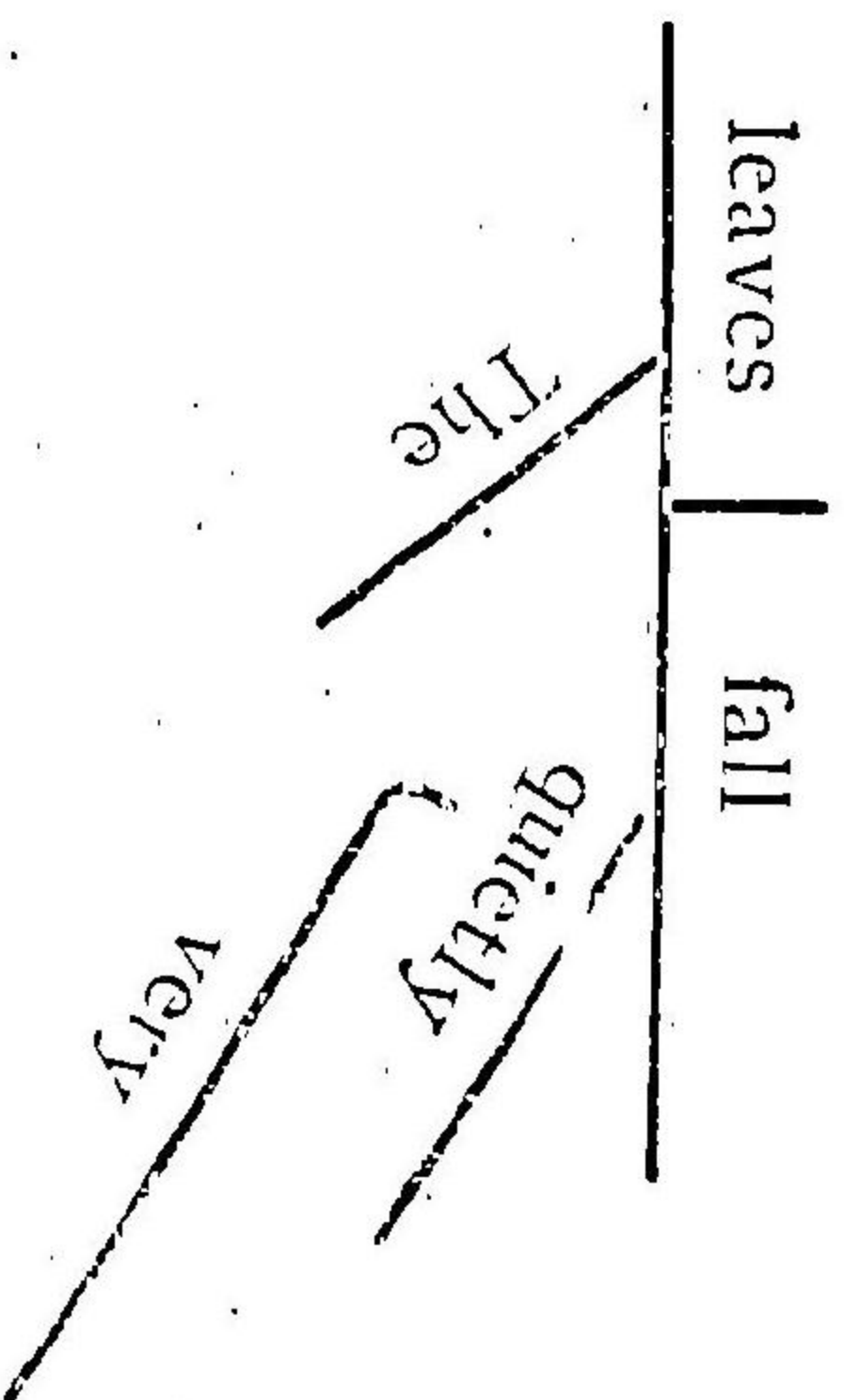
梅の ———— 花 ———— 開きぬ

半ば

既に

かく花開きぬといふ骨子を形容詞副詞等にて修飾するの

で花に梅のを加へ又龜井戸のを加へて主部は成り、開きぬに半ばを加へ、半ばに既にを加へて、始めて「龜井戸の梅の花、既に半ば開きぬ」となるのである。英文の例を示せば。

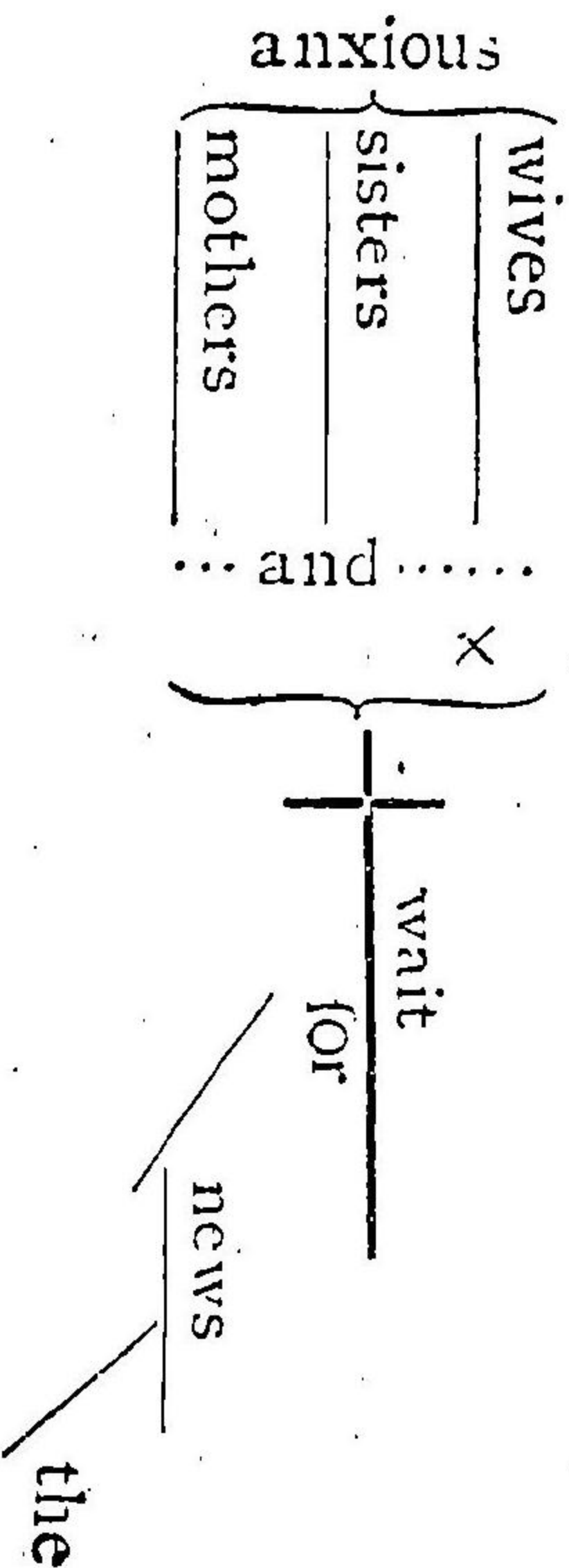


即ち

The leaves fall very quietly.

又

Ah



即ち

Ah! anxious wives, sisters, and mothers wait for the news.

和文英譯及作文

かくして文は成り、之を重ねて千言數千言の長文は成るのである。而して短文は實に其樞軸であるから、之にさへ熟達すれば必ず長文は出来る筈である。尙ほ文體は成るべく叙事文、叙情文、評論文の順序で進むべきである。

○書翰文

書簡文には、官公用、商用、私用の別がある。官公用文は極めて鄭重に、商業用文は極めて簡明に、私用文は成

るべく親愛に記すべきものである。

此にはたゞ私用文に就いて、二三の注意を示すに止めて置く。

書狀の認め方は、先づ紙の上から一寸位の處の(罫紙の第一行目)中央から稍や左の處から住所月日年(自己の)を書く。若し一行で足りなければ、其次の行の(前のよりも)稍や右から書き、猶ほ足りなければ、又其次の行に矢張前よりも少しく右方に記す。而して重なる字は皆大文字で書き、番地と年と日だけは數字で書く。

次に宛名は日附の次行の左端に書く。一行で足りなければ二行三行に書いてもよいが、其各行の頭字は矢張漸次右に寄せなければならぬ。尤も極く親しい友人に與ふる書ならば、宛名及住所は本文の最後に書くがよい。挨拶(即ち親しき君よの如き)は、宛名を書く時は其次行の左端稍や右から書き、宛名を書かない時は日附の次行左端から書いて其行の殆んど中央に至らしめる。而してコムマ、ダツシユ又はコロンとダツシユで止める。挨拶は對手によつて異なる。宛名もさうである。今宛名の敬稱

を擧ぐれば、

Mr. — 一人に

Messrs. — 數人に

Master — 少年に

Miss — 少女に

Mrs. — 夫人に

Madame — 老婦人に

Misses — 數人の少女に

Mchames — 數人の夫人又は老婦人に

Dr. — 醫者に、又は名の終に M.D.

Rev. — 牧師僧侶に、尤も其名(氏に非ず)を知らない
時は Rev. Mr. —

Rev. Dr. — 神學博士にして牧師たる人に、
尤も Rev. — D.D. としてもよす。

His Excellency — 知事、公使等に

Hon. — 大臣、議員、裁判官、市長等に。

若し其稱號學位などが二個以上の時は、下のから上のに
上る。然し上のだけを書いて置けばよす。

挨拶は、未見の人には、

Sir, Dear Sir, Rev. Sir, General (軍人に) Madame

等で、知り合ひには、

Dear Sir, Dear Madame

等で、友人には、

My dear Sir, My dear Madame, My dear Frank

などである。其他親疎の度によつて多少異なる。これは
邦語の拜啓に當る。

本文は挨拶の次行、挨拶の終位の所から書き初める。即

ち殆んど中央から書き始める。然し宛名が長い時は、同行から書き始める。

決して誤字、脱字、塗抹等をしてはならない。招待状などのやうな形式文は、一人稱二人稱を皆三人稱で書いて宛名挨拶等は記さない。

例へば

Mr. & Mrs. Taira request the pleasure of Mr. & Mrs. Minamotos' company at a social gathering, on Saturday evening, Apr, 10th, at six o'clock.

21-st, Apr. 3rd.

のやうなもので、返書も此様なものである。結尾は本文最後の次行中央から書く。長い時は漸次右に寄せて行首の字は大文字で書くことは宛名と同じである。これは日本の頓首敬白などと同じである。親しい者には

Your sincere friend; Yours affectionately; Your loving brother;

などで、又商用文などと同じく

yours truly; Truly yours.

など書くこともある。而して其下に自己の名を書き、又

友人などには少しく明けて左端から其名宛住所を書くのである。

封筒は、中央の左から書いて、住所は漸次右の下端に至らしめ、切手は右の上端に貼附して、日本のやうに己れの住所は書かぬが普通である。今之れを圖示すれば、

No. 4, Tsukiji, Tokyo,

Apr. 15th, 1906.

My dear Sir:—

I have.....



Your true friend,

Hideyoshi Toyotomi.

Mr. I. Tokugawa,

25, Bluff, Yokohama.

Mr. J. Sakagawa,
 No. 25, Bluff,
 Yokohama,
 Japan.

切

◎英語受験心得

現時の試験制度は餘り感心が出来ないものであるが、然し試験といふものが尙ほ存して、進級の唯一の關門たる限りは、亦之に對する準備もしなければならぬ。暗記物ならば、一夜漬の復習も随分効能がないではないが、英語といふやうなものは、兼ての心掛が肝要で、試験前に一週間や十日狼狽した所が左程効能はないのである。故に常に本書に書いてあることを能く實行して、い

ご鎌倉といふ場合に騒がぬやう兼て兜の緒をメめて置くべきである。

然しそれも間に合はない場合には如何したらよいか。固より盗賊を見て索をなふのであるから決して良法はないが、之に關する二三の注意を記さう。

試験前には身體の攝生を怠つてはならない。飲食を慎み、滋養物を取り、運動を怠らないやうにすべきである。決して其前夜徹夜などをしてはならない。それが爲めに肝心の日に頭腦が錯亂して、思ひ掛けぬ失錯をなす事がある。

るものである。

理解力に訴ふる種類を成るべく前に済まして、記憶力に訴ふる種類を後にすべきである。

英譯などは、兼て困難な文句、熟語等を抜萃して置いて試験の當日、試験の始まる前に一應反覆すべきである。文法なども試験前に調べる時、極く要領を表などにして其當日再び緋閲すべきである。

問題に接する時は、落着いて前後の聯絡を善く考へ、種々に考へ直して最もよいと思ふものを記すべしである。

易い問題を早く書いて、困難なのは後廻しとするがよい。時間が不足な時など殊に然りである。

問題總てに答へた後は固より、一問題から次の問題に移る時も能く注意して再讀し誤謬脱落などのないやうにしなければならぬ。

若し英文和譯や和文英譯に、知らない字がある時には、意味のみを取つて、字に拘泥しないがよい。即ち受働のものを他働に、又は表から言つてあるものを裏から解釋してもよい。要するに其大意要領を摘まんで記せばよい。

若し又其字が極めて肝要な字で、之を知らずしては全く大意をも知し難い時には全く之を擲つよりも、正直に其原語(和文英譯ならば其日本語)を書いて、他の所のみを譯して置く方がよい。

書取などでわからない字があつたらば、日本の假名で書いて置いて、後に善く聞くか又は前後の文意を見て推察するかすべきで、決して一字わからないとて長く躊躇してはならない。しかすれば其後の他の字迄聞き損ずる恐れがある。

若し疑はしい事があるか、又は言葉を加ふべき必要があれば、括弧の中に記して置くがよい。又兩意に解釋される場合などには、二通り書いて置くべきである。

無論胡麻かしは悪い。又他人と談話又は左顧右盼してはならない。かくすれば他人から習ひ又は他人のを見ずとも試験委員からしか思はれる恐れがある。

コムマ、セミコロン、コロン、などに能く注意し、又省略してある關係代名詞などに特に注意すべきである。

和文英譯に若し譯し方を知らない時は、他に同じ意味の

言葉で譯してよい。和文などを一字一字文字通りに譯さうと思ふのは間違である。たゞ其意味のみを取れば字は構はない。

右は單に一二の注意を挙げたのであるが、本書中に反覆陳述した事柄を能く守つて、平素十分の戦闘準備をして置くべきである。善く本書全部の注意を實行すれば、其成功は必ず刮目すべきものがあらう。

◎英文學研究法

英文學の研究法を、僅々此數頁の中に述べることは殆ん

ど不可能の事である。否英書では一部の完全な書として出版されて居るものが少くない。たゞ此には、未だ嘗て指を英文學の一斑にも染めた事のない初學者で、始めて英文學を學ぶには、果して如何なる門から入り如何やうにすればよいか迷ふ人に、單に彼處の門がよからうと指ざし示すに止まるのみの概略を記して參考に供しよう。必ずしも英文學と限つた事はない。孰れの國の文學を學ぶにも先づ大體其國の歴史は一通り知つて置く必要がある。單に政治史ばかりでなく、風俗史などは殊に心を留

めて研究すべきである。然し風俗習慣の一斑は、少しく詳細な歴史には多少載つて居るから、止むを得なければ稍や詳細な歴史を讀んで、其國の政治宗教の沿革、風俗習慣の變遷等の大體に通じて置くべきである。然らば英國史では何がよからうかと云ふに、勿論夥多の書籍であるから各多少の長短はあるが、先づ文學研究の目的の人には

Greens, "The History of English People"

が最も適當である。然しこれは少し大部のものであるか

ら同じ人の

“The Short History of English People.”

がよい。尤も此小歴史でも猶ほ八九百頁あつて殊に細字であるから不便だとすれば、止むを得ずモンゴメリー氏の英國史でも讀むべきである。

次に文學史を讀むを要する。即ち古代より近時に至る一般の文學史を讀むべきである。然しノールソン氏の説の如く、先づ極めて簡明にして要を摘まんだ小文學史を精讀して大體頭腦に收まつた後に稍や詳しいのを讀むが良

法であらう。英文學史は佛人テレーヌの書の英譯を始め、セーンツベリー、ブルーク、ゴッス等汗牛充棟も雷ならずであるが、此目的に適した簡明の小文學史は、先づ

Brooke's "English Literature".

などが最も好い、或はウエストレーキの英文學史でもよい。次いで稍や詳細なものを讀むべきである。

既に一般の文學史に通じたとすれば、次には特殊の文學史を研究しなければならぬ。即ちエリザベス時代であるか、或は十九世紀であるか、或る一時代の文學史を詳

しく調ぶべきである。これは固より其研究の對象に依て時代が異なるのである。即ち已れの研究しようと思ふ作者の時代を調べるのである。

次に其作者の傳記を調べる。即ち系統、父母、家族、朋友、教育、境遇等を出來得る限り詳細に研究すべきものである。時代と遺傳と境遇と教育とは作者の性格を形る四大要素であつて、其作物は亦此四者の片影たるに外ならぬのである。

かくして準備全く整つた後に其作物に及ぶ。即ち第一回

は字義を調べ、第二回は文體を調べ、第三回目始めて之を味ふので、其後は其作物と他の作物との關係等を比較總合して研究する。尤も作物を研究するにも、其作家の處女作から、時代を逐うて研究するのと、其傑作のみを研究するのと、最後の作から順次溯つて研究するのと、の三方法があつて、孰れも一得一失があるが、然しこれ等は其研究の目的に依て、第一法を取り或は第三法を取るべきであるのは言ふ迄もない。

尙ほ英文學は、元來佛蘭西文學から生れ出たもので、詩

の如きは殊に然りて、チヨーサー出で、始めて伊佛等の文學を綜合して英文學てふ一文學を開いたので、其後も擬古文學派クラシズムや何かの思想形式も、佛文學に負ふ所が極めて多いのであるから、出來得べくは獨佛文學、特に佛蘭西文學少くとも佛蘭西文學史の大體は研究して置く必要がある。殊にチヨーサー以前の文學を研究する時などは、佛蘭西と獨立して研究することは殆んど否全く出來ない。これは日本文學が支那文學に於けるが如き比ではない。朝鮮文學と稱する程のものありとすればが支那文學に於

けるが如き關係である。佛文學の一端にも通じないで、漫に英文學を喋々するのは、猶ほ英文學を知らずして米文學を説くやうなもので、殆んど一笑にだに附する値のないものである。

文學には猶ほ研究すべき餘地が澤山ある。文學とは何ぞやといふ問題の如き、文學史の體裁の如き、詩形の如き、小説の分類の如き、未開の地不毛の野は我等の前途に渺茫として横はつて居る。之を開拓するは一に懸つて吾人の後繼者にあるのである。

英文學は雄渾である。海の詩が多い。道德臭いものが多い。佛蘭西文學は輕快である。山野の詩が多い。自由自主を稱賛する詩が多い。英國には大小説がない。水滸傳、八犬傳、源氏物語、レ、ミゼラブルに比すべき小説がない。英文學に志す者は、たゞ之に心酔して、我れに彼に勝る大小説があることを忘れてはならない。英文學研究法を陳べ立てれば、優に大部の書を成すに足る位である。今はたゞ初學者が進むべき道を指し示したに止めて置く。若し尙ほ深く之を知らうと思ふ人は、原書に就いて見る

べしである。研究法のみでも數へきれぬ程あるが、中に最も手輕で、簡明に解り易く書いてあるのは即ち左の書である

Knowlson's "How to Study English Literature".

英語のヨルトウエイ終

明治三十九年六月十二日印刷
明治三十九年七月四日發行

正價金廿貳錢五厘



發行者 東京市日本橋區通四丁目七番地 西村寅次郎

印刷者 東京市日本橋區通四丁目七番地 遠藤銓吉

印刷所 東京市日本橋區通四丁目七番地 六合會

發賣所

東京市日本橋區通四丁目 東雲堂書店

東京市日本橋區下槇町 集文館書店

●最新書刊目

英語練習問題詳解

頗美本全壹冊
定價金貳拾貳錢五厘
特別金拾八錢

容	文法練習問題	副動詞	代名詞	形容詞	名詞
内	作文及和文	前置詞	接續詞	會話練習問題	英譯練習問題

英語の試験に及第せむと欲する人は此書を読め。文法の極りきつたる事に厭きたる人は此書を読め。文法の粹と英文和譯と和文英譯と作文と會話とを一時にマスターせむと欲する人は此書を読め。

東京商工中學校講師野間正橋先生編

英語會話辭彙

紙數大凡五百頁
定價金四拾五錢

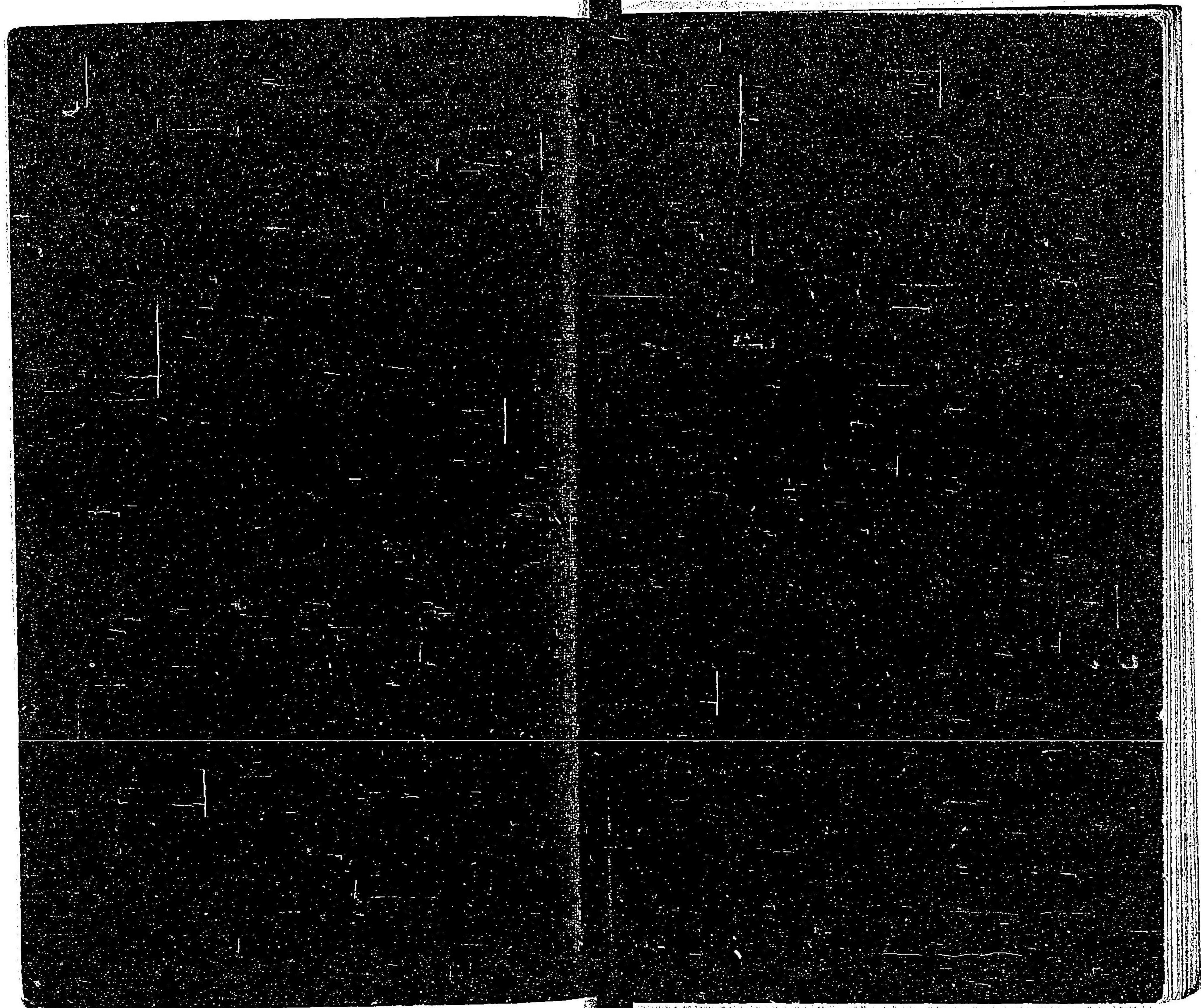
本書は現今世に行はる、僅々二三十章の甲間ひ乙答ふるの紋切形の會話篇とは大に其選を異にし新年、歳晚、四季、地震、火事、雨天、降雪、月夜、舟遊、演劇、角力、電車、電話、喜悅、悲嘆、憤怒、驚愕、承諾、拒絕、挨拶、訪問、病院、病氣、銀行、商店等其他日常極めて適切なる壹百章以上の題目に就き英米人普通慣用の語句を蒐集し之を『五十音』順に排列したるものにして人事百般の事は殆んど之を網羅したりされば若し必要の場合に臨み之を繕き各題下に就きて搜索せば其言はんと欲する語句は大抵之を見出し立どころに其用を辨ずべし且つ又同一の思想にして其言ひのし方の異なりたるもの皆之を收載し又每章中の困難なる語を其章の冒頭に掲げ其アクセント及びマークを示したれば發音上の裨益も亦尠からざるべく之に加ふるに卷末に附するに尺牘範例、揭示語句及び俚諺集等を以てしたれば實業家并に中學生諸君の無上の好同伴たるべし請ふ諸君一本を購ひ在來刊行せるものと比較し以て如何に本書の價值あるかを知り給はんことを

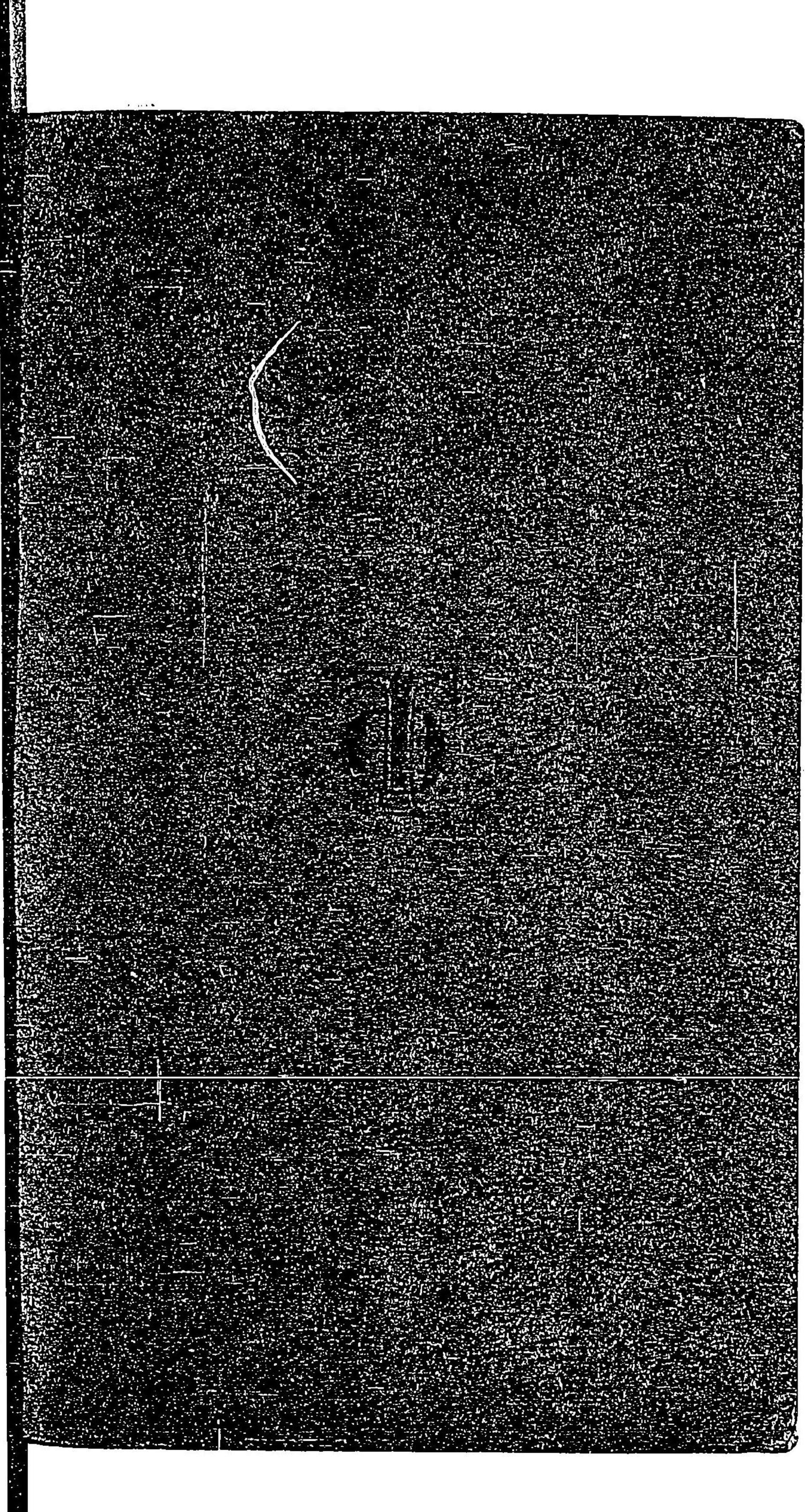
英和
對譯
？
ズル
三

頗美本全壹册
定價金貳拾貳五錢厘
特別金拾八錢

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|------|------------|
| 容 | 内 | (1) | 運 | | |
| (3) | (2) | 希 | 望 | (5) | 旅 |
| (4) | (3) | 職 | 業 | (6) | 勝 |
| (4) | (7) | 試 | 戀 | (7) | 戀 |
| | (8) | 驗 | 結 | (8) | 結 |
| | | | 婚 | | 婚 |
| | | | 負 | (9) | 病 |
| | | | 行 | (10) | 氣 |
| | | | | | 私は何になるてしよー |

我は日本人と英人とに共通なる天の使なり、我は汝等兩國の少年と
學生に其將來を告げむか爲めに來れり。我が言を聽け我れ汝の將來
を告げむ。





特 71

787

301370-001-2

特71-787

英語ショート, ウエイ

英語攻究会/編

M39.7

DAH-0001

